北日本新聞8月13日付けの「復興つち音爪痕は今も」を読んで

桜井高校　一年　西川　舞

東日本大震災から3年5ケ月が過ぎようとしている。津波で多くの命をうばった震災からもう3年がたつのかと思える。今は全くと言ってもよいほど、このことに関してはテレビで報道されていない。家族や友達に東日本大震災という言葉を言ってもいつ、何年前だろうというふうに流されてしまうと思う。それだけ被災していない私たちは他人事のように思っていたのかもしれない。そのときは、募金など行って支援している気になっていたのかもしれない。もちろん私もその中の一人だと思う。被災者はじに深い傷を負い、何の傷も負っていない私たちに比べると簡単に忘れることはできないと思う。3月11日に特別番組で取り上げられ、そこで一回思い出した後、また記憶から薄れていく、このようなことを繰り返してもよいのだろうかと思った。

北日本新聞 20×20

北日本新聞 新聞感想文コンクール 原稿用紙

被災地の現在の様子は何一つ分からない。

岩手県三陸沿岸の市町村はまだ津波の爪痕が残っている。約3年半が過ぎようとしている。

のに、まだ復興が進んでいないことに私は驚いた。飲食店や薬局などの仮店舗が建っているが住民はまだ仮設住宅で暮らしている。

岩手のある記者は「町が元通りになっても、どれだけの人が海岸部に戻ってくるかが分からないし」と話した。町が元通りになることは嬉しいことだと思うけれど、戻ってこないのは次の大規模の震災への恐怖や不安があるからだと思う。三陸沿岸はこれまで3度の津波を経験しており、住民を守るために万里の長城とも呼ばれるほど堅固で高い防潮堤がつくられたのに、18人もの犠牲者が出た。大丈夫だろうと思ってつくられた防潮堤、しかしそれを乗り越えた津波。今後、東日本大震災より大規模な津波が来ても町を守れる防潮堤をつくり、少しでも住民の方々の不安を軽減させたいと思った。

北日本新聞 新聞感想文コンクール 原稿用紙

この記事のおかげで私は震災のことを思い出した。私は中学3年生の冬に総合の時間に震災について調べ発表した。その時に、忘れかけていたことをみんなに思い出してもらえたと思う。このようにどても小さなことだが行動することが大切だと思う。富山県のように大量のがれきを受け入れる大きなことから今、私たちができる小さなことまでみんなですればきっと大きな支援になると思う。だから、私は震災のことを思い出す日を一日でも多くしていきたい。被災者の方が一日でも早く元通りの生活を送ることを願う。

北日本新聞 新聞感想文コンクール（原稿用紙）

復興つち音 爪痕は今も

「人は戻るのか…」

2011年3月11日の東日本大震災で甚大な被害を受けた岩手県三陸沿岸の市町村。3年5カ月が過ぎた今も、壊れたままの防潮堤や、鉄骨がむき出しになったホテルなど津波の爪痕が残っている。ただ、がれきは片付けられ、住宅造成工事が始まるなど復興が本格化する様子も見えた。今月上旬、現地を訪れ、被災地を歩いた。

（社会部部長デスク・浜浦徹）

ようやく復興に向けた工事が始まった山田町。仮設店舗が点在する＝岩手県

震災直後、大規模火災によって多くの住宅が焼けた山田町。富山県とも縁が深い。高岡市、新川広域圏、富山地区広域圏の1市2組合が昨年、この町の計約1200トンのがれき処分を受け入れた。

高台にある町役場から、まだ更地の目立つ町を見下ろした。工事用トラックが行き来し、飲食店や薬局などの仮設店舗が建っていた。しかし住宅を波にさらわれた住民の多くは、今も内陸部の仮設住宅で暮らす。当時、熱風にあおられながら炎に包まれる町の様子を撮影した地元紙・岩手日報の記者は「町が元通りになっても、どれだけの人が海岸部に戻ってくるか分からない」と話した。

山田町の北約40キロにある、海と山に囲まれた宮古市田老地区。宮古観光協会の防災ガイド、沢口強さん(35)の案内で、16メートルの津波が乗り越えた防潮堤（高さ10メートル、長さ2・4キロ）の上に立った。

三陸沿岸は1896（明治29）年、1933（昭和8）年、60（同35）年と3度の津波を経験してきた。田老地区では、住民を守るため「万里の長城」と呼ばれる堅固な防潮堤が築かれていたが、181人の犠牲者が出た。

住民がホテル屋上から撮影した3・11のビデオ映像を見た。いったん高台に避難したものの再び自宅に物を取りに戻った年老いた女性が、ものすごいスピードで襲来した黒い渦の中に一瞬で消えた。沢口さんは「危機感があったかどうかが生死の境目を分けた」と振り返った。

8～10日に岩手県内で開かれた東北みらい創りサマースクール（実行委主催）の大災害報道を考えるセミナーに参加した。「東日本大震災の次の大規模災害へのカウントダウンはもう始まっている」。セミナーではこんな指摘も出た。いつ、どこで起きるか分からない大規模災害。いかに備えるかにわれわれの知恵が問われている。

防潮堤の上で3・11の津波について説明を受けるセミナー参加者＝岩手県宮古市